

# 2017 フランス柔道指導者 訪日活動支援の研修報告

濱田 初幸\*

## I はじめに

2017年4月10日から13日の間、フランス柔道指導者40名が愛媛県松山市に來訪し、柔道を通じた交流と名所旧跡を視察するなど日本文化を学ぶ活動を行った。筆者は研修の一環として、その活動を支援したので報告する。

訪日団代表者の Yves・Cadot 氏は、2014年に福山市立大学で開催された日本武道学会に参加した際、松山市を訪ねた。その時に散策した街並みや松山城、道後温泉の風情が大層気に入った様子であった。俳人・正岡子規を輩出した地であり、読了している夏目漱石著の『坊っちゃん』の舞台になったこの地に以前から関心を持っていた。

さらに、司馬遼太郎著の『坂の上の雲』を愛読書としていることから、小説の主人公である秋山好古・真之兄弟が松山出身であることを承知して、その兄弟生誕の地に建立されている常盤同郷会柔道場を案内した際は、一方ならぬ感銘を受けた様子が窺えた。

明治時代を生き抜いた若者の群像を描いたこの小説への造詣が深く、特に兄・好古がフランスに留学、騎兵法を学んだことなどから、いずれフランス人を引率して、この柔道場で日本人柔道家たちと稽古をさせたいとの思いを強く抱いたことが契機となり、今回の訪問が実現した。柔道と文学が交差融合して実現した、日仏交流であった。

## II 日程表

月 日	内容
4/10(月)	松山 到着
4/11(火)	愛媛県武道館視察
	愛媛県知事表敬訪問
	松山市長表敬訪問
	松山城観覧（松山市協力）
	松山大学・彰廉館にて稽古
4/12(水)	松山大学柔実会歓迎会
	砥部焼伝統産業会館観覧（砥部町協力）
4/13(木)	常盤同郷会にて合同稽古
	松山 出発

## III 愛媛県武道館視察及び表敬訪問

初めに、訪日団一行は松山市近郊に建ち、威容を誇る愛媛県武道館を視察した。

愛媛県武道館は、日本最大級の規模を有する武道館で正式な柔道試合場が8面設置でき、約1,100畳を敷くことができるだけでなく、使用時以外、畳は床下にコンパクトに収納され、必要時にボタン操作一つで自動的に地下から浮上してくる秀逸な柔道場である。畳を人力に頼ることなく、オートマチック方式で敷くことができる「浮上式柔道用床転換システム」と呼ばれる、世界初の最先端技術を導入した画期的な武道館である。

当日は4面の試合場が特別に設置されたが、初めて見る機能性の高さに驚き「素晴らしい」を連呼していた。案内役の館長に、建設費や床転換システムに関するメカニズムなどの質問を行い、情報を収集していた。

次いで一行は、中村時広 愛媛県知事と野志克仁 松山市長を表敬訪問し、秋山兄弟と常盤同郷会の話やフランスの柔道等について和やかに歓談した後、プレゼントの交換を行った。（図1）

\* 鹿屋体育大学 スポーツ・武道実践科学系



(図1) 松山市長表敬訪問



(図2) 常盤同郷会柔道場前にて

#### Ⅳ 松山大学での稽古

夕方から松山大学柔道場である「彰廉館」で合同稽古を行った。最初に、日本人指導者2名による技術講習会を実施した。

訪日目的の一つである「両手で相手の柔道衣を柔らかく握り合って、力に頼ることなく動きの中で技を掛け合う日本人の美しい柔道を学びたい」という要望から、日本人指導者による講習会を取り入れた。

日本人の柔道技術は諸外国の柔道家にとって、相手の動きやタイミングを利用して投げる美しい柔道として捉えられ、とても魅力的な「技」として認識されている。フランス柔道家たちの関心度は高く、解説を食い入るように聞いていた。

#### Ⅴ 常盤同郷会での稽古

##### 1. 歓迎セレモニー

3日目の午後からは、常盤同郷会柔道場で稽古を行った。日本瓦を用いた純和風建築の佇まいの道場の傍らには、桜（通称・秋山桜）が満開に咲き誇り、日本の美を堪能するに最適な環境であった。(図2)

稽古開始の冒頭、本交流の依頼を快諾し、全面的に支援してくれた平松昇常盤同郷会会長から歓迎の挨拶に始まり、豪快な和太鼓の演奏や同郷会理事らから女性陣への花束贈呈が行われるなど、「おもてなし」のセレモニーが挙行された。

##### 2. 稽古

しばしの休憩後、前日とは別の指導者2名による、「固技」と「投技」が紹介された。

次いで、常盤同郷会少年柔道部員とフランス柔道家の「乱取」が行われた。フランス国家指導者資格を所有している指導者だけに、子供たちの潜在能力を導き出す、「引立稽古」に精通している稽古法が見られた。

最後に、フランス柔道家と愛媛大学柔道部員や近隣の柔道愛好者など約100名が「乱取」を行った。120畳程の道場で制限された広さでの「乱取」となったが、我先にと積極的に稽古相手を求め、激しい攻防が繰り広げられた。(図3)



(図3) 常盤同郷会合同稽古

##### 3. フランス代表者の謝辞

稽古終了後に代表責任者である Frederic・Dambach 氏から謝辞が述べられた。

氏はお礼の挨拶の中で、「常盤同郷会は素晴ら

しい道場です。私が留学のために初めて日本に訪れた際、嘉納治五郎師範が柔道を興された講道館柔道発祥の地・「永昌寺」のような町道場を訪れたいと思っていた。しかし稽古する場所であった、筑波大学、東海大学、他の町道場もすべて近代的な建物ばかりで古い町道場はどこにもなく非常に残念であった。今日訪れた常盤同郷会の道場はとても古く、私はとても気に入った。まずはそのことに感謝したい。」と語った。

常盤同郷会は昭和20年に建造された道場であり、神社仏閣の様な佇まいである。氏は続けた。「常盤同郷会は人数が少なく、道場の火が消えそうな状態であると聞かすが、決して消えることはない。柔道を愛し、礼を尽くすという精神が消えない限り、この道場の魂が消えることはない。きっと続けていけばまた、良いことがあるだろう。そう願って挨拶に代えさせてもらいます。」と力強く感謝と希望に満ちた心の籠ったメッセージで締めくくった。

## Ⅵ まとめ

3年後に東京五輪を迎えることから、多くの外国人が日本を訪れることが予測される。地方の魅力を発見し、日本各地を訪ねる外国人も増えるだろう。早くから地方の特色や、知名度は高くないが地域の人々に親しまれている旧所名跡、都会では体験できないローカル色豊かな情報等を海外に発信することが、外国チーム招聘誘致や地方活性化にも反映されるであろう。

今回はその魁となる活動の一端を報告するが、鹿屋体育大学の中期計画に明記する「グローバル化に関する目標を達成するための措置」等とも関連する活動であることを付記しておく。

本交流に協力・支援して頂いた関係者の皆様に心よりの謝辞を申し述べ、報告とする。